



オホーツク  
国際理解教育研究会

平成24年度 第1号  
平成24年6月20日発行

## 会長挨拶



### 「国際理解教育」のねらいとは？

オホーツク国際理解教育研究会

会長 吉田 寛  
(北見市立美山小学校長)

「オホーツク教育推進計画」の「望む風」の5に、「国際理解教育の推進」と題して、「外国語教育（外国語活動）の充実」と「国際理解・異文化理解教育の充実」の二つの推進の観点が示されています。そのうち、「国際理解・異文化理解教育の充実」では、「各教科等における指導のねらいや内容の関連を図った指導計画の充実」「国際交流などの活動を通して、文化や生活習慣の相違を理解し、受け入れようとする寛容な態度を育む教育活動の充実」と記述されています。

また、北海道国際理解教育研究協議会では、研究大会の研究発表や提言等で、それぞれ国際理解教育の目標や目指す子ども像、価値項目などを示してきています。

こうして、示されている内容や背景を見てくると、いくつかのキーワードがでてきます。それは「グローバル化」「自立と共生」「異文化・多文化理解」「持続可能」「平和」等の言葉です。

外国語活動が、どちらかといえば「国際社会で活躍できる日本人の育成」というような具体的な目標であるのに対して、国際理解教育の目標は、すこし観念的な目標といえるかもしれません。外国語活動は、国際理解教育の一部であるというのが、国際理解教育研究会の基本的な考えです。しかし、それは、「言語や文化について体験的に理解を深め」という部分であり、「小学校における外国語活動は、慣れ親しむ活動」という考え方からです。昨今、外国語活動が、語学的な色彩を強め、中学校英語の前倒しとしての考え方が強まってきているような気がします。私たちは、外国語活動＝国際理解教育ではないということを、しっかり肝に銘じ、取り組んでいかなければならないと感じています。

今年のFLAPの活動も始まりますし、本研究会の研究部も、研究大会に向けた実践的な研究が始まります。国際理解教育に限らず、教育の究極の目標は、「平和の維持」であり「人格の完成」です。こうした「ねらい」を真摯に追求しながら、真の国際理解教育の実践・普及に努めていただきたいと思います。

# 平成24年度 オホーツク管内国際理解研究協議会役員

会 長 吉田 寛 (訓子府中学校長)  
副 会 長 光成 英二 (端野小学校長)  
石田 篤司 (網走東小学校長)  
藤田 俊一 (滝上白鳥小学校長)  
監 事 西村 榮樹 (斜里中学校長)  
濱田 政三 (美幌北中学校)  
櫻田 弘道 (若松小学校長)  
事務局 長 菅原 敏明 (北見南小学校教頭)  
事務局次長 佐藤 文昭 (西興部小学校教頭)  
河原 賢 (滝上小学校教頭)  
吉本 隆 (中斗美小学校教頭)  
小野寺哲浩 (端野中学校教頭)  
研究部長 相馬 一之 (美幌小校教諭)  
組織部長 大石 剛 (紋別小学校教頭)  
情報部長 齊藤 修 (湖陵中学校教頭)



よろしくお願ひいたします。



## 今後の活動予定

4月30日 海外教育事情研究会 (済)  
在外教育施設派遣教員希望者講習会 (済)  
6月25日 網走地方研修センター講座「国際理解」  
10月25日~26日  
第33回北海道国際理解教育研究大会十勝(帯広)大会  
未 定 第25回オホーツク管内国際理解教育研究大会  
平成25年  
2月23日 総会・激励会



会費の納入はお済みでしょうか？3000円です。

お問い合わせは

端野中学校小野寺哲浩教頭先生 (TEL0157-56-2023) まで

# 海外教育事情研修会



4月30日に端野中学校を会場として、開催されました。

今年度は、雄武小学校の出口梨恵先生と紋別潮見中学校の渡邊美希先生から海外での活動報告がありました。



出口先生は、JICA 青年海外協力隊としてアフリカ・ウガンダ共和国で2年間生活されてきました。予定では音楽・体育指導だったはずが行ってみると算数と音楽クラブの指導が中心だったこと、コピー機がないので100人分手書きで問題プリントを作ったこと、言葉の壁以外に現地先生方と指導法や授業に対する考え方の違いが埋まらずに苦勞したことなど、想像を絶する話の連続でした。

か、整形を肯定する考え方やポッキーの日、土日も塾通いの学歴偏重社会など、同じ東アジア圏とは思えない面白い話が次々に出てきました。

オホーツク管内には、面白い経験をされた先生がまだまだ沢山いるそうですね。

渡邊先生は、韓国で日本語学校で日本語の指導をされていました。韓国人気質や食生活、流行など幅広い分野で韓国文化を紹介してくださいました。キムチ用の冷蔵庫があるとか、



その後は、海外で仕事をされた先生との交流・質疑応答タイム。「日本の誇るところ・海外に見習うところ」や「身の危険を感じたこと」「食べ物でおいしかったもの」などの質問に対していろいろな答えが出ていました。



## <日本人学校や海外生活の情報が必要なときは…>



文部科学省HP CLARINET 海外子女教育情報

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/002.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002.htm)

○最初の日本人学校は？教員の派遣先での身分は？基礎的な情報たくさんあり。

東京学芸大学 国際教育センターHP 指導実践記録集 WEB版

<http://crie.u-gakugei.ac.jp/report/>

○日本人学校の先生方の実践が沢山あります。教材がない・季節感がない、そんな場所でどう教えるか？のヒントが見つかるはず。

海外子女教育振興財団

<http://www.joes.or.jp/index.html>

○「現地採用」という選択肢もある。

# From San Francisco

4月にサンフランシスコに赴任した長崎先生から、写真を送っていただきました。



「アメリカに来て、一番困惑するのは、単位がみんな違うことです。重さはポンド、距離・速さはマイル・ヤード、長さはインチとフィート、温度は華氏で表示されます。気温や距離感がつかめず、まだ慣れません。

もう一つ慣れないことは、チップの制度です。これは日本人にはなかなかすんなりいかない習慣でしょう。タクシーやホテルはもとより、レストランや床屋さんでは必ずチップが要ります。マックやスターバックスなどでは要りません。どうしてももらえる人ともらえない人がいるのか、よくわかりません。食事をするると必然的に15～20%も額が上がりますので、何だか納得できないような…。しばらくはどうしたらいいか、いちいちどきどきしていました。

こちらで運転免許をとりました。すごく合理的なのは、信号が赤でも右折してもいいということです。つい止まって待ってしまいますが、安全なら行きましようというのは実に素晴らしい。無駄に待つ必要はないということでしょうか。」

平成24年がスタートしました。皆様いかがお過ごしでしょうか。国際理解研のHPもぜひご覧ください。

<http://abakoku.jp/>

情報部 湧別町立湖陵中学校 齊藤 修